紙數 空行 差八壹百七拾壹枚

明治二十五年四月十三日 城數馬譯

物ノ貳

民法理由書財産編物權 第貳

自七四条
至一四二条

第七於四年

第七十四条

用益権ノ設定者ハ用益者ノ篤実ト其善良ノ管理トニ信用ヲ置キテ目録及ビ形状書ヲ作ルノ義務ヲ免除スルコトヲ得ベシト雖トモ此ノ如クニシテ遂ニ虚有者ノ権利ヲ保存スルノ方法ヲ失ハシムルノ如キハ其当ヲ得タルモノニ非ラズ蓋シ虚有者ハ用益権設定者ノ相続人ナルコト屢々ナリト雖トモ仍ホ設定者ノ相続人ナルノ故ヲ以テ設定者ハ任意ニ虚有者ノ権利ノ権保ヲ失ハシムルコトヲ得ト謂フ可カラズ故ニ断

ノ如キ場合ニ於テハ虚有者ヲシテ動産ノ目録及ビ不動産ノ形状書ヲ作リ以テ自己ノ利益ヲ全フスルノ道ヲ得セシムルコトヲ要ス総テ用益権ノ設定者カ用益者ニ此ノ如キ義務ヲ免除セシムルトキト雖トモ惟此場合ニ於テハ用益者之ヲ作ルノ義務ナクシテ虚有者自カラ進ンデ之ヲ作ルガ故ニ其費用ハ虚有者ニ於テ負担スヘキモノトス

右ノ権利ハ独リ虚有者ニ存スルノミナラズ同一ノ條件ニ従フトキハ用益者ト雖トモ亦之ヲ

有スルモノナリ

有スルモノナリ

右ノ場合ニ於テ代替物ヲ目的トスル用益権ニ関シ其評価ニ売買ノ効力ヲ附スルコトハ多少疑ヒ有ルガ如シト雖トモ仍ホ用益者ハ常ニ評価ヲ監督シ而シテ之ニ意見ヲ述ブルコトヲ得ベキガ故ニ惟リ此場合ニ於テノミ評価ヲシテ売買ノ効力ヲ有セシメザル正当ノ理由アルヲ看ズ且ツ此事タルヤ実ニ此ノ如キ種類ノ用益権ノ性質上必要ナルモノナリ

本条第二項ニ於テ第七百二条及ヒ第七百三条

ノ規定ヲ適用スルコトヲ明説シタルハ別ニ説明ヲ要セサル所ナリ

第七拾五条

用益者既ニ動産ノ目録及ヒ不動産ノ形状書ヲ作ルノ義務ヲ有シ収益ヲ始ムルノ前ニ於テ之ヲ履行スヘキニ当リ本条ノ規定スル過失ヲ為シテ其義務ヲ尽サヽルトキハ用益者自カラ其結果ヲ蒙ルヘキコト勿論ナリ

又動産ニ関シテハ之ヲ保存スル為メ及ヒ其収益ヲシテ完全ナラシムル為メ完好ナル形状ニ

於テ之ヲ保持スルコト所有者ノ慣行ナルヲ以テ若シ用益者形状書ヲ作ラスシテ之ガ収益ヲ始メタルトキハ完好ナル形状ニ於テ之ヲ受取リタルモノト法律上推定ス故ニ用益者カ占有ヲ得タル当時其不動産ガ完好ナラザル形状ニ有リシコトヲ主張スベキ処ノ用益者自カラ之ヲ証明スルコトヲ要ス此証明ハ普通ノ証拠方法ニ由テ之ヲ為スコトヲ得ベシ就中用益者ガ占有ヲ得ル以前既ニ不動産ニ毀損アリシコトヲ知レル証人ノ陳述又ハ現存スル用益物ノ毀損ガ

用益者ガ占有ヲ得タル時ヨリ以前ニ溯ルニトヲ陳述スル鑑定人ニ依テ之ヲ證明スルニトヲ得ベシ

動産ニ関シテハ使用ニ由テ容易ニ毀損スルニトヲ得ルモノナルガ故ニ必ズシモ完好ナル形状ニテ常ニ存スルモノニ非ラズ茲ヲ以テ用益者目録ヲ作ラザルモ始メニ完好ナリシトノ推定ヲ下スコト能ハズ惟存スル所ノ物ハ如何ナル物品ナリシヤ如何ナル物質ナリシヤ如何ナル員数及ビ品格ナリシヤヲ知ルニ在リ

此点ニ至リテハ用益者ハ猶ホ自己ノ過失ノ結果ヲ受クルノ危険アリ何トナレハ右ノ如キ場合ニ於テ虚有者ハ用益者ニ對シ其引渡シ又ハ動産物ノ品質員数及ヒ價格等ヲ甚タ容易ニ證スルコトヲ得ベケレハナリ即チ虚有者ハ單ニ證人證據及ビ一般ノ事情就中用益権設定者ノ資格其資産及ビ其地位等ニ基ノ事實ノ推定ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ルノミナラズ仍ホ世評ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ベシ世評トハ一般ノ風聞ニシテ近隣ノ輿評ニ外ナラザルナリ

（参看證據編第三於七条）

證人、證據ト世評トノ間ニハ大ナル差異アリ蓋シ證人、證據ノ場合ニ於テ證人ハ其自カラ知ル所ノモノヲ陳述スルコトヲ得人ノミナレドモ世評ノ場合ニ於テ證人ハ證明ヲ要スル事項ニ実シ他人ヨリ聴キタル所ノコトヲモ陳述スルコトヲ得ベケレバナリ（第七於六条及ビ第七於七条）

債権者ニ対シ債務者ガ義務ヲ履行セサル場合ニ於テ其債務者ニ代リ自カラ此義務ヲ履行ス

ベキニトヲ諾シ保證ト名クル特別ノ契約ニ依
テ一個ノ義務ヲ約スルモノ之ヲ保證人ト名ヒ
保證人ノ義務ハ主タル債務者ニ對シテハ全ク
好意ヨリ成ルモノナリ惟主タル債務者自カラ
義務ヲ履行セザルシテ保證人其為メニ義務ノ弁
済ヲ為シタルトキハ主タル債務者ニ對シテ求
償權ヲ有スルノミ
保證ニ関スル事項ハ債權担保編ニ於テノ詳細ニ
説明ヲ為スベシ（先看第三条以下）
用益者ガ供スルコトヲ得ベキ擔保ハ單ニ保證

人ノミニ限ラズ其他稍久ナルコトヲ得ベシ

用益者ハ本条ニ掲クル如ク返還及ビ償金ノ義務履行ノ為メ連帯者ヲ立ツルコトヲ得ベシ連帯者ハ通常ノ保證人ニ比スレバ一層有益ナル擔保**大ナリトス**

用益者ガ保證人ヲ立テ又ハ連帯義務者ヲ立ツルモ其擔保人ノ資力不確カナルカ又ハ其資力確カナリトスルモ虚有者ニ於テ之ヲ承諾セザルトキハ裁判所ニ於テ虚有者又ハ用益者ノ請求ニ基キ此点ヲ裁決スルコトヲ要ス

若シ用益者ノ担保シタル担保人ニシテ資力アルモノナル時ハ虚有者ハ之ヲ以テ満足セサル可カラス之ニ反スル場合ニ於テハ法律ニ於テ定メタル如ク對人担保ニ代フルニ物上担保ヲ以テスルコトヲ要スヘシ

保證人及ヒ連帯債務者ノ如ハ義務ノ履行ヲ担保スルモノ人ニ非ラスシテ物ナリ故ニ之ヲ名ケテ物上担保ト云フ例之ハ供託所又ハ当事者ノ認諾スル第三者ニ為ス金銭ノ寄託或ハ動産質不動産質及ヒ抵当ノ如シ

第七拾八条

如何ナル場合ニ於テ動産ノ評價ガ賣買ノ効力ヲ有スルヤハ既ニ第七拾三条ニ於テ之ヲ設ケリ此ノ如ク用益物ノ評價ノ為メ用益権ノ設定一個ノ賣買タル場合ニ於テハ用益者ガ其権利消滅ノ時ニ於テ返還スベキモノハ用益物ニ非ラズシテ一定ノ金額ナルヲ以テ用益者ガ当初提供スベキ担保モ亦此金額ニ對スルモノナルコトヲ必要トス元來用益権ノ目的金銭ニ在ラズシテ惟評價ノ為ニ賣買ノ効力アリシ場合ニ

於テモ既ニ此ノ如シ然ヲハ始メヨリ金銭ヲ以テ直チニ用益権ノ目的物トスル場合ニ於テハ此ノ如クナル可キコト固ヨリ論ナシ凡テ此等ノ場合ニ於テ用益者カ金銭ヲ以テ返還ヲ為スベキ場合ニ於テハ用益権消滅ノ当時用益者カ此義務ヲ弁済スル資力ナカランコトヲ堤ル、モ決シテ其ノ用ヲ害スルモノト謂フ可カラズ何トナレバ其返還スベキ金銭ハ他ノ物ト異ナリ常ニ消費スルヲ以テ用方ト為スモノナレバナリ此ヲ以テ金銭ノ場合ニ於テハ常ニ其全額

ニ對シテ担保ヲ供スルコトヲ要ス
然リト雖トモ動産ノ評價ガ賣買ノ効力ヲ有セサル場合ニ於テハ其評價ノ全額ニ對シテ担保ヲ供セシメサルモ亦容易ニ解シ得ヘキ所ナリ何トナレバ用益者カ當初受取リタル物ヲ以テ返還ヲ為スヘキ場合ニ於テ自カラ保管スル用益物ヲ消費シ又ハ全部消滅セシムルカ如キコトヲ豫メ推測スルハ用益者ニ對シ名譽ヲ害スルモノト謂ハサルヲ得ズ此ノ如ク用益者ヲ愧カシムルコト無クシテ始メヨリ要スルコト

ヲ得ルハ惟用益者ガ或ハ不注意ヲ為スヘキニ

ヲ得ルハ惟用益者ガ或ハ不注意ヲ為スベキコ
ト是ナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ法律ハ評價
ノ全額ニ對シ担保ヲ要求セズシテ惟其半額ニ
止メタリ蓋シ此担保ハ万一、一部ノ滅失其他毀
損ノ生シタル場合ニ於テ充分ノ担保タル可キ
ヲ信シタルヲ以テナリ
然レドモ用益者ガ自カラ有スル権能ニ基キ右
ニ掲ゲル如キ動産ノ用益権ヲ他人ニ譲渡シ又
ハ之ヲ賃貸シタル場合ニ於テハ所有者ハ前ニ
掲ゲタル担保ヲ以テ満足スベキニ非ラズ何ト

ナレバ此時ヨリ已後用益物ハ用益者ノ手ニ存セズシテ却テ三者之ヲ占有ス可ク而シテ所有者ハ従来ノ用益者ニ對スルト同一ノ代用ヲ第三者ニ望ムコト能ハザル可ケレバナリ故ニ此場合ニ於テハ評價ノ全額ニ對シテ担保ヲ供スルコトヲ要ス

此場合ニ於テ一個ノ問題生ズ即チ法文ニ於テ之ヲ決定セズト雖トモ原則ニ基キテ之ヲ断ズルコトヲ得ベシ即チ用益権ノ讓渡又ハ賃貸ノ場合ニ於テ担保ノ擴張ハ当然生ズルモノナル

ヤ将タ保證人又ハ用益者ノ更ニ之ヲ諾約スル
コトヲ必要ト為スヤ是ナリ
先ヅ保證人及ビ連帯債務者ニ付テ之ヲ考フル
ニ当初詳債ノ半額ニ付テ保證人又ハ連帯債務
者タルコトヲ約シタル以上ハ後ニ至リ右ニ揭
ケル如キ事情生ズルモ此制限以外ニ要求ヲ為
スコト能ハズ何トナレバ此等ノ担保人ノ義務
ハ其諾約ニ基クモノニシテ而シテ諾約ハ此範
囲内ニ止マレバナリ縦令用益者ガ用益物タル
動産ヲ窃取シ隠匿シ又ハ毀損スル等ノコト有

ルモ保證人及ヒ連帯債務者ハ常ニ評價ノ半額ヲ弁濟スルヲ以テ其義務ヲ盡シタルモノトス然ラバ則チ用益者其權利ヲ他人ニ讓渡シタル場合ニ於テモ猶ホ之レト同一ナラザル可カラズ

用益者ニ在テハ之レト同一ナラズ蓋シ担保ノ擔保ヲ要スルニ至リシハ全ク用益者ノ爲メニ基クモノナリ故ニ用益者自カラ金銭其他ノ有價物ヲ寄託シ以テ物上ノ担保ヲ供シタルカ又ハ動産質若クハ抵當ヲ供シタル場合ニ於テ其

價格カ担保ノ不足ヲ補フニ充分ナルトキハ次ニ掲ケタル擴張ハ当然ニ生スルモノトス
質ニ関シテハ其場合最モ簡單ナリトス何トナレハ此場合ニ於テ用益者カ新タニ債務ヲ担ヒタルニ非スシテ当初ノ債務者カ増加シタルニ止マルモノニシテ既ニ所有者動産質ヲ取得シタル以上ハ他ニ同一ノ動産質ヲ有スル債権者アルヘキ理ナシ故ニ用益権ノ譲渡又ハ賃貸ノ為メ担保ノ擴張ヲ致スモ為ニ何等ノ人ヲ害スルコトナシ

抵当ニ関シテハ多少ノ注意ヲ要スヘキモノ有リ此場合ニ於テ抵当モ当然擴張スベキコト論ナシト雖トモ仍ホ所有者ハ其債権ノ二個ノ部分ニ付テ同一ノ順位ヲ有セザルコト有ルヘシ例之ハ当初所有者ガ抵当ヲ取得シタル後他ノ債権者同一ノ不動産ニ付キ第二ノ順位ニ於テ抵当権ヲ取得シタリト想像スヘシ此場合ニ於テ抵当ノ擴張ヲ致スモ此擴張ヲタル債権ノ部分ニ對シテハ既ニ他人ノ得タル抵当ニ先ダツコト能ハズ何トナレハ他人ガ正当ニ取得シタ

ル抵当ノ順位ハ其後ニ至リ其承諾ナクシテ之ヲ失ハシム可キニ非ラザレバナリ又抵当ノ擔保ヲ生ゼザルモ所有者ニ於テ補足ノ登記ヲ為シテ之ヲ担任セザル以上ハ其以後ニ於テ抵当ヲ取得シタルコト有ルベキ債権者ニ對シテモ之ヲ主張スルコト能ハザルベシ

若シ用益者ガ缺ニ担供シタル担保ニシテ債務ノ全部ヲ担保スルニ足ラザル場合ニ於テハ用益者ハ更ニ物上担保又ハ對人担保ヲ以テ此不足ヲ補フノ義務アリ

不動産ヲ以テ用益物ト為シタルトキハ用益者自カラ用益權ノ行使ヲ為スト或ハ他人ニ賃貸ヲ為スト区別セズ用益者ガ提供スベキ担保ハ決シテ用益物ノ價格全部ニ相当スルコトヲ必要トセズ何トナレバ縦令用益物ガ建物ナル場合ト為ストモ仍ホ用益者又ハ用益權ノ讓受人若クハ賃借人ノ過失ニ依テ其全部ノ滅失ヲ致ス如キコトハ殆ンド想像シ得ベカラズ又土地ノ用益權ノ場合ニ於テハ其毀損ハ概シテ些少ニ止マル可キモノナレバナリ茲ヲ以テ不動産

ノ用益権ノ場合ニ於テ所有者ガ要求スルコト
ヲ得ヘキ担保ノ類ハ一ニ裁判所ノ定ムル所ニ
従フヘキモノト為セリ

第七拾九条

凡テ前数条ニ掲ゲタル保証其他ノ担保ハ至ノ
主タル義務ノ従ニ過ギザルヲ以テ此等ノ担保
ヲ明カニスルハ未ダ充分ナリト謂フ可カラス
必ズヤ主タル義務ヲ明カニ指定スルコトヲ要
ス然ラザレバ用益者ガ責任ヲ負フヘキ場合ニ
於テ裁判所ガ之ヲ言渡スニ当リ確実ナル基礎

ヲ得ンコト難カル可ケレバナリ

第八拾条

本条ハ用益者ガ法律ノ定メタル担保ヲ供スルコト能ハザル場合ニ於テ用益者及ビ所有者相互ノ利益ヲ調和スルコトヲ勧メタリ即チ用益者縦令此担保ノ義務ヲ尽スコトヲ拒ミ又ハ之ヲ尽スコト能ハズトスルモ単ニ此一事ノ為メ全ク其権利ヲ失ヒタルモノトスルハ甚当ヲ得タルモノニ非ザレバナリ

此二個ノ利益ノ調和ノ為メ法律ノ定メタル方

法ハ法文ニ於テ詳細ニ之ヲ規定スルガ故ニ說
明ヲ要スル所甚ダ尠ナシ
故ニ惟二個ノ規定ニ付テ注意ヲ為ス可シト雖
ドモ是レ猶ホ容易ニ解シ得ベキ所ノ者ナリ
第一用益物ガ金錢ナル場合ニ於テ之ヲ供託所
ニ寄託シ又ハ之ヲ國債券ニ代ヘテ益用スル場
合ニ於テハ常ニ用益者及ビ所有者両人ノ名義
ニ於テスルモノナリ其理由ハ双方共ニ承諾ス
ルニ非ラザレバ其金額ヲ引出スコトヲ得ズ又
債権ヲ譲渡スコトヲ得ザラシムル為メナリ

等ニ用益物タル土地ヲ賃貸シタル場合ニ於テ
用益者ハ賃貸ヲ収取スベシト雖トモ仍ホ保存
ノ費用其他毎年ノ負担ヲ払除スルコトヲ要ス
蓋シ後ニ至テ説明スベキ如ク此ノ如キ負担ハ
用益者ガ自カラ収益スル場合ニ於テモ之ヲ受
クル、コト能ハス然ルニ用益者ガ担保ヲ供ス
ルコト能ハサル為メ所有者又ハ第三者ヲシテ
収益ヲ為サシムル場合ニ於テノミ惟リ用益者
ガ此負担ヲ受ケテ利益ヲ得ルハ其当ヲ得タル
者ニ非ラザレバナリ然リト雖ドモ用益物ノ賃

貸ノ場合ニ於テ貸借人自カラ此等ノ負担ヲ引受ケタルトキハ貸賃中ヨリ更ニ之ヲ扣除ス可カラザルコト勿論ナリ惟此場合ニ於テハ借人ノ負担重キガ故ニ従ツテ其借賃モ他ノ場合ニ比スレバ少ナル可キコト勿論ナリ

第八拾一条

用益者ガ多少ノ担保ヲ供スルモ未タ法律ノ定メタル額ニ達スル能ハサル場合ニ於テハ右ニ示シタル場合即チ用益者カ何等ノ担保ヲモ供スルコト能ハサル場合ト同一ニ之ヲ遇スルニ

ト能ハサルナリ故ニ用益物ノ或ル部分ニ付テノミ用益者自カラ収益ヲ為スコトヲ得セシメタリ而シテ用益物ノ如何ナル部分ニ對シテ此一部ノ担保ヲ適用スベキヤ従ツテ如何ナル部分ノ収益ヲ自カラスベキヤハ一ニ用益者ノ撰擇ニ任セタルハ其宜シキヲ得タルモノト謂ハザルヲ得ズ

用益者ガ他日ニ至リテ其担保ノ不足ヲ補フコトヲ得ルニ至リタル場合ニ於テ如何ニ處分スベキヤハ法律ニ於テ別段ニ規定ヲ為サズ然リ

ト雖トモ此場合ニ於テハ用益者ヲシテ用益物ノ全部ニ付キ自カラ收益ヲ為サシムベキコト勿論ナリ若シ前条ノ規定ニ基キ虚有者又ハ第三者ガ賃借権ヲ取得セル場合ニ於テハ用益者ハ其期間ノ満了マデ之ヲ犯スコトヲ得ザルハ明カナリ

第八拾二条

用益権ノ設定者即チ虚有者ガ当初用益者ニ担保ヲ供スルノ義務ヲ免除スルコト有ルベシ然レドモ此免除ヲ為スノ意思ハ決シテ自己ノ相

使人ヲシテ用益物ノ滅失ノ危害ヲ蒙ラシメント欲スルニ非ラズ惟設定者ハ用益者ノ篤実、其善良ノ管理及ビ就中用益者ガ将来ニ於テ無資力ト為ルコト莫カル可キヲ信シテ此免除ヲ為シタルモノナリ故ニ若シ用益者ニシテ他日無資力ト為ル如キコト有ラバ之ガ為ニ免除ノ利益ヲ失フベキコト当然ナリ何トナレバ此場合ニ於テ用益者ハ最早設定者ノ豫想シタル所ニ反シ信任ヲ有セザル可ケレバナリ

贈与物ニ付キ贈与者ガ自己ノ利益ノ為ニ用益

権ヲ留存シタル場合ニ於テ贈与者ニ担保ノ義務ヲ免除シタル理由ハ容易ニ之ヲ解スルコトヲ得ベシ蓋シ贈与者ハ資本ノ贈与ニ依テ恩恵ノ所為ヲ為シタルモノナリ此ノ如キ仁者ノ収益ニ付テ信用ヲ置カサルハ至当ト云フコト能ハザル可シ

然レドモ此ノ如キ場合ニ於テ用益者若シ無資力ト為リタルトキハ前条ニ規定シタル場合ト類似ノ理由ニ依リ更ニ担保ヲ供スルコトヲ必要ト為ス

第八拾四条

本条ニ於テ用益者ハ善良ナル管理人ノ如ク収益スベシト定メタルハ蓋シ用益者ガ自巳ノ事物ニ加ヘルト同一ノ注意ヲ用益物ニ加フルノミヲ以テ足レリトセザルコトヲ明カナラシムルニ在リ

用益者ニシテ自巳ノ負担ニ帰スル保存ノ工事ヲ為スコトナク又ハ産殖ヲ可ト為スモ以テ土地或ハ獣畜ノ生産力ヲ消耗セシメ用益物ノ毀損ヲ為シタル場合ニ於テハ用益者自カラ其責ニ任ズ

可キコト固ヨリ疑ヒナシ第一ノ場合即チ保存ノ工事ヲ為サヽル場合ニ於テハ懈怠アリ即チ為スベキノ所為ヲ為サヽルモノナリ（消極ノ所為）第二ノ場合即チ生産力ヲ消耗シタル場合ニ於テハ為ス可カラサル所為ヲ為シタルモノニシテ過失アリ（積極ノ所為）又大修繕ハ其利害尤モ所有者ニ大ナル関係ヲ有スルモノナルニ其必要生シタル場合ニ於テ用益者之ヲ所有者ニ告知スルコトヲ怠リタルトキモ亦同一ナリ此大修繕ノ必要ガ暴風又ハ洪水等ノ為メ突然ニ

生ジ而シテ所有者ガ用益物ノ存スル所ト同一ノ土地ニ住居セザル場合ニ於テハ特ニ然リト為ス

第八拾五条

本条ニ於テハ経験ヲ以テ基礎ト為シ用益者ニ對シテ一ノ過失ノ推定ヲ設ケタリ蓋シ火災ハ大概其家屋ノ住居人ノ懈怠ニ依テ生ズルモノナルガ故ニ用益物火災ノ為ニ滅失シタルトキハ之ヲ以テ用益者ノ過失ニ出ヅルモノト推定セリ

火災ノ場合ニ於テ其始マリタル場所ハ殆ント常ニ毀滅スルガ故ニ火災ノ原因ハ屡之ヲ知ル能ハザルコト有リ従ツテ火災ノ箇所ニ在テ調査ヲ遂グルモ充分ノ効果ヲ看ルコト能ハザルモノナリ且ツ其住居者ハ自己ノ責任ヲ恐ルヽガ故ニ各自ノ過失ト為リ得ベキ所ノコトハ凡テ之ヲ隠蔽スルコト普遍ノ状態ナルヲ以テ益々其実ヲ得ルコト困難ナリ

、火災ノ場合ニ於テ住居者ノ過失ヲ推定スルコトハ其建物ニ住スルモノガ所有者ナラザル場

合ニ於テハ特ニ至当ナリトス何トナレハ此場合ニ於テ住居者ハ其建物ノ保存ニ付キ所有者ト同一ノ利益ヲ有セズ従ツテ同一ノ注意ヲ為サヾルコト有ル可ケレバナリ

之ヲ要スルニ本条ノ規定ハ甚ダ厳酷ナルガ如シト雖トモ其実決シテ一見直チニ考フル如ク甚ダシキモノニ非ラス何トナレハ用益者ハ此推定ヲ受クルモ猶ホ凡テノ方法ニ依リ自己ニ過失ナキコトヲ証明スル権利ヲ有スレバナリ

隣家ノ建物ヨリシテ火ヲ発シ遂ニ類焼ニ及ビ

メルトキ又ハ落雷ノ為ニ火災ニ罹リタルトキ
ノ如キハ用益者ガ過失ナキコトヲ證明スル實
ニ何等ノ因縁ヲモ要セザルベシ其他ノ場合ニ
於テモ判事ハ本条ニ定メタル法律上ノ推定ヲ
打破スル為メ一切ノ事実ノ推定ヲ為スコトヲ
得ベキナリ例之ハ用益物タル建物ガ或ル時間
全ク鎖サレ而シテ何人モ之ニ住居セザリシコ
ト明カナル場合ノ如キ是ナリ火災ニ罹リタル
建物ノ用益者ガ数人ニシテ其中何人ガ過失者
ナルヤ知ルコトヲ得ベカラザル場合ニ於テハ各用益

者ハ第三百七拾八条ニ定メタル罰則ニ従ヒ全部ニ対シテ責任ヲ受クルコト能ハズ此場合ニ於ケル用益者ノ義務ハ逮滞ノモノニ非ラズ又不可分ノモノニ非ラズ然レトモ全部ノ義務ト称スル所ノモノニシテ前ニ者ニ比スレハ多少軽キモノナルコト後ニ至テ之ヲ説明スヘシ

第八拾六条

本条第三項及ヒ第四項ニ従ヘハ大修繕ト小修繕ノ区別ハ甚タ容易ナルヘシ何トナレハ大修繕ノ列記ヲ為シテ而シテ其他ノ修繕ハ概子小修

繕ノ性質ヲ有セシムレバナリ
小修繕ヲ以テ用益者ノ負担ニ帰セシメタルハ
二個ノ理由ニ基クモノナリ第一善良ナル管理
人ハ毎年ノ所得中ヨリ此種類ノ修繕ノ費用ヲ
支弁スルモノナリ然ルニ用益者ハ毎年ノ所得
ヲ得ルモノナルヲ以テ通常ノ負担タル小修繕
ヲ為スベキハ当然ナリ第二小修繕ハ概子物ノ
日常ノ使用ニ依テ必要ト為ルモノナリ而シテ
此使用ヲ為スハ用益者ナルガ故ニ使用ノ結果
タル小修繕ハ用益者ニ於テ之ヲ為サヾル可カ

ラズ用益者ガ大修繕ノ義務ヲ負担スル例外ノ場合（第二項）ハ説明ヲ俟タズシテ解スルコトヲ得ベシ例之バ用益者居室ヲ廣ムルノ目的ヲ以テ建物ナドノ壁ヲ取除キ因テ建物ノ堅牢ヲ害シタル場合ノ如ク用益者自カラ直接ノ過失ヲ犯シタルコト有ルベシ或ハ屋根若クハ水管ノ修繕ヲ怠リタルニ依テ重大ナル毀損ヲ生ゼシムルニ至リタルコト有ルベシ共ニ本条第二項ニ掲グル例外ノ場合ナリトス

本条ニ於テ大修繕ノ何者タルヲ示スコト甚タ

完全ナル如シト雖モ決シテ此列記ヲ以テ左ノ限定ノモノト解スルニトナキヲ要ス蓋シ立法者ガ限定ノ列記ヲ為サヾル所以ノモノハ甚如シキ不都合アルヲ以テナリ建築ノ種類ハ種々ナルガ故ニ如何ニ緻密ナル列記ヲ為スモ到底法律ノ豫想シ能ハザル修繕ヲ必要トスルコトアルベク而シテ其修繕ハ一旦限定ノ列記ニ漏レタルトキハ如何ナル種類ノモノト雖トモ必ズ小修繕ト看做スコト已ムヲ得サルニ至ルベシ茲ヲ以テ遂ニ用益者ニ於テ之ヲ負担セザル

可ナラス而シテ其修繕ノ性質ヨリ考フルトキハ甚タ重要ノモノニシテ到底毎年ノ所得ヲ以テ負担シ得ベキモノニ非ラズ之ヲ例エルニ梯子ノ全部ノ再造ノ如キ是ナリ用益者ヲシテ此等ノ修繕ヲ負担セシムルハ至タ正義ニ反シ又ルモノト謂ハザルヲ得ズ然レトモ他ノ一方ヨリ考フルトキハ均シク梯子ト称スルモノヽ中ニ於テモ甚タ重要ナラサルモノ有リ此等ニ至テハ必ズシモ大修繕トシテ用益者ノ負担ヲ受カラシム可キモノニ非ラズ此ニ因テ之ヲ観レバ

法律ノ明記セサル場合ニ於テ其修繕ノ性質如何ニ関シテハ各場合ニ付テ裁判所ニ認定ノ権ヲ有セシムルヲ以テ最モ其宜シキヲ得タルモノト為ス

例之バ水管ノ破壊シタル場合ニ於テ其修繕ガ大修繕ナルヤ将タ小修繕ナルヤハ一概ニ之ヲ決シ得ベキニ非ラズ必ズヤ其水管ノ性質、重要及ビ之ヲ築造シタル材料ノ如何ヲ案シテ修繕ノ性質ヲ定メサル可カラズ

要スルニ両個ノ性質ノ修繕ヲ区別スルニ当リ

テ裁判所ガ標準トスベキ所ノモノハ左ノ如シ
若シ修繕ノ工事ガ特ニ費用ヲ要セズシテ善良ナル管理人ハ毎年ノ所得ヲ以テ之ヲ支弁ス可キモノナルトキハ此修繕ハ用益者ノ負担タルベシ之ニ反シテ元本ヲ以テスルニ非ラザレハ支弁シ得ベカラザル如キ性質ノ修繕ナルトキハ大修繕ナリ

第八拾七条及ビ第八拾八条

第八拾六条第二項ニ規定シタル二個ノ場合ノ外用益者ハ大修繕ノ義務ヲ有セザルモノナリ

然ラバ此二個ノ場合ノ外ニ於テ用益者ガ自己ノ任意ヲ以テ大修繕ヲ為シタルトキハ所有者ニ向テ其費用ノ償還ヲ請求スルノ権利アルヤ若シ他人来リテ此等ノ修繕ヲ為シタル場合ニ於テハ事務管理ノ原則ニ従ヒ所有者ニ向テ費用ノ償還ヲ請求シ得ベキコト勿論ナリ然レトモ用益者ハ此場合ニ於テ所有者ノ利益ノ為ニ此修繕ヲ為シタルモノト謂フコト能ハス寧ロ自己ノ利益ノ為メ即チ物ノ滅失ヲ防ギ以テ完全且ツ重要ノ収益ヲ得ンガ為ニ此修繕ヲ為シ

又ルモノト謂フベシ故ニ此場合ニ於テハ主務
官吏ノ規則ヲ適用スルコト能ハサルハ明カナ
リ

然レトモ顧ミテ一般経済上ノ利益ヲ考フルト
キハ用益者及ビ所有者ヲシテ進ンデ大修繕ヲ
為サシムルコトヲ要スベシ何トナレバ此修繕
ヲ為サヾルトキハ用益物ハ滅失スルコト明カ
ナレバナリ

用益者ハ此修繕ヲ為スノ利益ヲ有スルコト勿
論ナリトス何トナレバ此修繕ヲ為サヾレバ用

益物ノ滅失ト同時ニ用益権ノ消滅ヲ致セバナリ然レトモ用益権ハ終身ヲ限ルモノニシテ元来射倖ノモノナリ故ニ用益者ガ多少ノ費用ヲ為シテ大修繕ヲ施シタル後幾許モナクシテ用益権消滅シタルトキ所有者ヲシテ畢竟ニ此修繕ノ利益ヲ得セシムルハ至当ト謂フコト能ハス故ニ用益者若シ大修繕ヲ為スモ何等ノ償求ヲ為スコト能ハズトセバ用益者ハ大修繕ノ必要アルモ自カラ進ンデ之ヲ為スコトナクシテ屡々建物ヲシテ毀滅スルニ放任スルコト有ル

心シ
虚有者ハ自カラ進ンデ大修繕ヲ為スノ意思アルコト甚ダ多カラザル可シ何トナレバ此大修繕ヲ為スモ忽チ其物ノ收益ヲ為スコト能ハズ用益権ノ終了スル時期未ダ知リ得ベカラザレバナリ茲ニ於テ所有者モ亦却テ大修繕ヲ為サズシテ用益物ヲ速カニ滅失セシメ依テ用益権ノ消滅ヲ致サンコトヲ希望スル如キコトナシトモ云フ可カラス又所有者自カラ大修繕ヲ為シタル場合ニ於テハ用益者ガ長ク其幾分ヲ負担

スルコトナクシテ単ニ利益ヲ受クルハ其当ヲ
得タルモノニ非ラズ
以上述ブル所ノ如クナルヲ以テ本条ニ於テハ
用益者ト所有者ガ費用ヲ分担スルノ方法ヲ定
メタリ而シテ此分担法ハ単ニ此場合ニ止ラズ
仍ホ他ニ其適用ヲ看ルヘキナリ即チ用益者ハ
所有者ニ毎年大修繕ノ為ニ費ヤシタル元本ノ
利息ヲ償還スルモノトス若シ大修繕ヲ為シタ
ルモノ所有者ニ非ラズシテ用益者ナルトキハ
最初大修繕ノ費用ヲ用益者自カラ支弁シタル

ガ故ニ用益権消滅ノ時ニ至リ償還ヲ受クル権利アル可シト雖トモ仍ホ当初ノ費用ノ全額ノ償還ニ訓ラスシテ惟用益権消滅ノ当時仍ホ用益物ガ此修繕ノ為ニ得タル増価額ノ範囲内ニ止マルモノトス

此ノ如ク双方ヲシテ其用ヲ分担セシムルトキハ用益者及ヒ所有者共ニ大修繕ヲ為スノ利益ヲ有シ従ツテ不動産ハ滅失スルコト莫カルヘシ

用益者大修繕ヲ為スモ又所有者此修繕ヲ為スモ

モ共ニ此修繕ノ必要ナルコトヲ立合ノ上證明スルコトヲ必要ナリトシタルハ其理由容易ニ解スルコトヲ得ヘシ惟ニ個ノ場合ニ於テ一ノ差異アルコトヲ注意スルコトヲ要ス用益者カ修繕ヲ為サント欲スル場合ニ於テハ先ツ修繕ノ必要ヲ證セシメ而シテ猶ホ所有者自カラ此修繕ヲ為スコトヲ欲セサルヤヲ確メサル可カラス之ニ反シテ所有者自カラ修繕ヲ為サント欲スル場合ニ於テハ單ニ修繕ノ必要ヲ證セシムルノミナラス猶ホ修繕ニ要スル費用ノ額ヲ

證スルコトヲ要ス蓋シ此證明シタル費用ニ基キ用益者ヲシテ毎年ノ利息ヲ弁済セシムルモノナレバナリ

若シ建物ノ全部ガ朽敗ノ為メ崩壊シ又ハ事変ニ依テ毀滅シタル場合ニ於テハ之ヲ再造スルコト経済上ノ利益ニ合スルハ猶ホ大修繕ニ依テ建物ノ毀滅ヲ豫防スルト同一ナリ然レトモ此崩壊ノ場合ニ於テ右ニ説明シタル両様ノ決定ヲ適用スルコトハ單ニ此建物ノ毀滅ノ為メ用益権ノ全部ノ消滅ヲ致サヽル場合ニ限ルモ

ノトス建物至ノ滅失シテ用益權消滅シタルトキハ所有者ハ固ヨリ之カ再造ヲ為スコト莫カルベシ用益者ニ在ッテハ自巳ノ費耆ニ依テ自由ニ消滅シタル權利ヲ再生セシムルコトヲ得ルカ故ニ此建物ヲ再造スル權利アラサルナリ

第八拾九条

毎年通常ノ租税及ヒ公課ハ果実ノ通常ノ負担ナリトス何人ト雖トモ元本ヲ以テ此ノ如キ負担ノ弁済ヲ為スモノハ非サルヘシ故ニ果実ヲ

取得スル用益者ニ於テ之ヲ負担セサル可カラズ
之ニ反シテ非常ノ負担ニ至テハ此ノ如クナラス此種ノ負担ハ継続セルモノニ非ラス且ツ屢々所得ヲ以テ弁済シ得ヘカラサル多額ノモノナル故ニ其権利ノ性質上時間及ヒ廣狭ニ於テ制限セラレタル用益権ヲ以テ此ノ如キ負担ニ任セシムヘキニ非ラス然レトモ此等ノ負担ハ用益者カ收益スル元本ノ減少ヲ致スモノナルカ故ニ此負担額ニ對シ毎年ノ利息ノミヲ負担

スヘシ
本条ニ於テ非常ノ直想ト看做スヘキ二個ノ場合ヲ指定セリ然レトモ此指定モ亦他ノ列記ノ場合ト同シク決シテ限定ノモノニ非ラス強要ノ借入ハ凡テノ歴史ニ於テ其実例ヲ看ルコト尠カラス然レトモ維新以来我政府ハ至今斯ノ如キ方法ヲ用ヒタルコトナシ又将来ニ於テモ必スヤ強要ノ借入ヲ為スコト莫ルヘシ蓋リ天下ニ向テ借入ヲ為シタルコト有リト雖トモ常ニ任意ノ募集ニ応スルモノヨリ之ヲ借入

レタルニ止マル例之ハ海軍擴張ノ為メ海軍公債ヲ募集シタル如シ故ニ強要ノ借入ノ事ハ法律ニ於テ之ヲ掲クルコト必要ナキガ如シト雖トモ於テ豫見シ得ヘキ場合ニ對シテハ明文ヲ設クルニトヲ可トスルガ故ニ強要ノ借入ニ非常ノ公課タル性質ヲ認ムルハ決シテ不當ニアラサルベシ

強要ノ借入ハ非常ノ租税ト次ノ點ニ於テ異ナルモノナリ強要ノ借入ハ原則上償還ヲ為スベキモノニシテ且ツ此償還ニ至ルマデ利息ヲ附スルコトヲ得ベシ然リト雖トモ租税ハ之ヲ強

要ノ借入ニ比エルトキハ其額甚ダ小ナルベシト雖トモ之ヲ直担エル人民ニ取リテハ至リ之ヲ出捐シタルモノニシテ再ビ之ヲ取戻スコトヲ得サルモノナリ

将来ニ於テ如何ナル組織ガ通常ノモノタル可キヤノ点ニ至テハ今明文ヲ以テ悉ク之ヲ明定スルコト能ハス第一此等ノ事項ハ民法ノ主トスル所ニ非ラズシテ行政法ノ範囲ニ属スルモノナリ加之ナラズ通常ノ組織ハ常ニ政治上重大ナル事情ノ生シタル場合ニ於テ其結果トシ

テ之ヲ賦課スルモノナルガ故ニ此ノ如キ非常ノ場合ニ於テ立法者ガ新タニ賦課スル公課ガ虚有者ト用益者ノ間ニ争ヒヲ生セシメ得ヘキコトノ如キハ立法者ガ之ヲ考フルニ遑アラザル所ナリ然レトモ本条ノ規定ハ要スルニ将来ノ立法者カ非常ノ租税タル可キ新税ヲ定ムル場合ニ於テハ適用上ノ困難ヲ生ゼサラシムル為メ非常ノ租税タル性質ヲ明カニセンコトヲ希望スルモノナリ

今日ヨリ疑フ可カラサル点ハ租税カ非常ノ性

直ヲ有スルニハ單ニ新税タルヲ以テ足レリト為サス即チ用益権ノ設定後ニ新タニ課セラレタルノミヲ以テ足レリトセズ蓋シ新税ト雖トモ多クノ場合ニ於テハ收益ノ負担タル可ケレバナリ孰レノ國ニ於テモ國家ノ必要ナル費用ハ漸次ニ増加スルヲ以テ或ハ新税ヲ課シ或ハ従来存スル租税ノ税率ヲ増スカ如キハ一般財政ニ関スル法律ノ普通ノ傾向ナリトス然レトモ是レ必スシモ人民ノ負担ヲシテ重カラシムルモノニ非ラス何トナレハ不動産ノ收入ハ常

ニ増加スル傾キ有レバナリ又租税ガ非常ノ性質ヲ有スルニハ単ニ臨時ノモノタルヲ以テ足レリトセズ例之バ其創定ノ当時、時期ノ指定ナクシテ之ヲ賦課シ後ニ至テ之ヲ廃シタルトキハ是レ臨時ノ租税ナルベシト雖トモ仍ホ用益者ノ負担ニ属スルコト有ルヲ得ベシ之ニ反シテ新税若クハ従来存スル租税ノ税率ノ増加ガ非常ノ事情ニ由テ必要トナリタルトキ即チ之ヲ例スルニ外国若クハ内国ノ戦争又ハ凶歳其他災害ノ為ニ必要ヲ生シタル場合ニ於テハ

総会之ヲ制定シタル法律ニ於テ臨時又ハ非常ノ性質ヲ明示セサルトキト雖トモ仍ホ之ヲ以テ非常ノ公課ト看做スコトヲ得ヘシ

本条ニ於テ「又ハ明カニ事情ヨリ生スルトキ」ト掲ケタルハ蓋シ此等ノ解釈ニ関シテ疑ヒナカラシメンカ為メナリ

第九拾条

本条ニ於テハ用益者又ハ虚有者ガ租税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ之ヲ怠リタルトキニ当リ処分ノ方法ヲ規定シタルモノニシテ其目的トスル

所一ニ國庫ノ權利ヲ明確ナラシメントスルニ在リ

本条ノ規定ハ至リ自然ニ出ツルモノナリ納税ノ義務アルモノ納税ヲ怠リタル場合ニ於テ若シ土地ヨリ生スル收益カ租税ノ辨濟ヲ全フスルニ充分ナル場合ニ於テハ國ハ果實ニ對シテ其有スル先取特權ニ基キ必スシモ此果實ヲ差押ヘ而シテ之ヲ賣却セシムヘシ此点ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ本条ニ明示スルノ必要ナシ然レトモ果實若クハ收入ナリ又ハ果實若クハ收

入ハ租税ニ充ツルニ足ラサル場合ニ於テ處有者若シ自カラ之ヲ納メサルトキハ政府ハ其土地ノ全部若クハ一部ヲ完全ナル所有權ニ於テ賣却セシムヘシ而シテ其代價中ヨリ租税ノ爲納ニ屬スル部分ヲ收取シ仍ホ殘餘アルトキハ其元本ハ處有者ニ屬スヘク收益ハ用益者ニ屬スヘシ

法律カ主トシテ希望スル所ノコトハ此場合ニ於テ單ニ土地ノ用益權ノミヲ賣却セシメスシテ其完全ナル所有權ヲ賣却セシムルニ在リ何

トナレハ用益権ノミヲ売却セシメシトスルモ之ヲ買フモノ甚タ勘カル可キノミナラス一方ニ於テハ虚有者トモ又自カラ租税ヲ納メサルノ過失アリト云フヲ得ヘケレハナリ

第九拾一条

保険契約ヲ為シタル場合ニ於テ被保人ハ保険ニ附シタルモノヽ価格ノ割合ニ応シテ毎年若干ノ金額ヲ払フヘシ而シテ保険人ハ罹災ノ不幸ニ遭遇シタル場合ニ於テ一定ノ金額ヲ払フ可キコトヲ約スルモノナリ被保人カ毎年払フ

所ノモノヲ保険料ト称シ保険人ガ拂フ可キ所
ノモノヲ償金ト称ス
本条ノ一項乃至三項ノ法文ハ啻第ニ之ヲ解ス
ルコトヲ得ヘシ
本条ハ惟虚有者ガ保険ヲ約シタル場合ヲ規定
スルノミ用益者ノ約シタル保険ノ場合ハ次条
ニ於テ之ヲ規定セリ
立法者ハ本条ニ於テ二個ノ場合ヲ区別セリ即
チ用益者ガ用益権ノ設定前ニ於テ保険ヲ約シタ
ル場合及ヒ其設定後ニ於テ之ヲ約シタル場合

是ナリ
為ス者カ用益権ノ設定前ニ於テ保険ヲ約シ又ハ場合ニ於テハ用益者ハ保険契約ノ負担ニ分任スルノ義務アリ即チ土地ノ毎年ノ負担トシテ所有者ガ拂フヘキ保険料ノ毎年ノ利息ヲ負担スルコトヲ要ス然レトモ一方ニ於テ用益者ハ此負担アルカ故ニ若シ契約ニ指定セル災害生シテ償金ヲ受取リタルトキハ用益者ハ其収益ヲ得ヘシ斯ノ如クナルカ故ニ年数ヲ経ルニ従ヒ所有者ガ拂ヒ来リタル保険料ヲ合算スル

トキハ次第ニ其額増加シ従テ用益者ガ毎年辨
済スヘキ利息モ亦漸次ニ増加スヘシト雖トモ
決シテ恐ルヽニ足ラス何トナレハ是レ独リ用益
者ノ負担増加スルノミニ非ラス虚有者ト雖ト
モ亦其辨済シ来レル保険料ノ元本ヲ始ヨリ負
担スルモノナレバナリ
第二ノ場合ニ用益者ガ既ニ用益権ヲ得タル後
虚有者ガ保険ノ契約ヲ為スモ之ガ為ニ用益者
ハ何等ノ負担ニ合任スルコトヲ要セス何トナ
レバ保険ノ契約ハ一方ニ於テ未必ノ利益ヲ共

フルトキモ一方ニ於テハ既定ノ負担ヲ課之
ルモノニシテ此ノ如キハ用益者ノ承諾ナク虚
有者ノ意思ノミヲ以テ之ヲ用益者ニ課スルコ
トヲ得ベキニ非ラサレバナリ又一方ニ於テハ
所有者ハ單ニ自巳ノ有スル虚有権ノミナラス
用益権ヲ合セ完全所有権ヲ保険ニ附シタル場
合ニ於テハ他日保険人ヨリ償金ヲ受取ルモ自
カラ直チニ之ガ収益ヲ為スコトヲ得ベ何トナ
レバ此場合ニ於テ所有者ハ自巳ノ権利ト同時
ニ他人ノ権利ヲ保険ニ附シテ一種ノ事務管理

ヲ為シタル者ナレバナリ是ニ由テ之ヲ觀レバ此ノ如キ場合ニ於テハ用益権ト所有権ノ評価ヲ為シ其割合ニ應シテ償金ヲ用益者及ビ所有者ニ分配スヘキニ似タリト雖トモ民法ニ於テハ此方法ヲ用井ズ蓋シ用益権ノ評価ハ其人ノ終身ヲ限リトスル性質ノ為ニ甚ダ困難ナルガ故ニ法律ハ他ノ方法ヲ採レリ即チ虚有者ハ保険人ヨリ受取リタル償金ノ中ヨリ先ツ自カラ辨濟シタル保険料ノ全額ヲ控除シ而シテ猶ホ殘餘アルトキハ用益者ハ之ガ收益ノ権利ヲ有スベ

之

本条第三項ハ船舶ノ保険ヲ以テ建物ノ保険ト同一視シタル者ニシテ是至当ナルコト辯ヲ俟タズ

第九拾二条

所有者自カラ用益物ヲ保険ニ附セザル場合ニ於テハ用益者ニ於テ用益物ノ完全所有権ヲ保険ニ附スルコトヲ得ヘシ是レ畢ニ委任ニ基イテ之ヲ為シ得ルノミニ非ラス仍ホ委任ナキ場合ニ於テ事務管理人ノ資格ヲ以テ之ヲ為スニ

トヲ得ヘシ此場合ニ於テハ第一項ニ於テ指示スル如ク若シ契約ノ指示スル災害ニ遇フタルトキハ用益者ハ償金ノ中ヨリ自己ノ弁済シタル保険料ノ全額ヲ引去ルヘシ然レトモ保険料ノ利息ハ用益者ノ負担タルヘシ何トナレハ特ニ虚有者ヨリ之ヲ受クルコトヲ得サレハナリ若シ契約ノ事変生シタルトキハ用益者ハ其弁済シタル保険料ヲ全ク損失スヘシ何トナレハ一方ニ於テハ保険人ヨリ償金ヲ受クルコト能ハス又他ノ一方ニ於テハ事務管理ノ原則

ニ基キテ虚有者ヨリ償還ヲ受クルコト能ハス虚有者ハ用益者カ事務管理トシテ為シタル保険契約ニ付テ金銭上ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ得ルコト莫カリシカ故ニ何等ノ費用ヲモ用益者ニ償還スル義務ナケレハナリ

本条第二項ニ規定シタル場合ハ第一項ノ場合ニ比シテ更ニ適用ヲ看ルコト屢々ナルヘシ用益者ハ実際ニ於テ特ニ虚有者ノ委任アル場合ノ外完全所有権ノ償額ヲ保険ニ付スルコト罕レナルヘシ多クノ場合ニ於テハ自己ノ有スル

用益権ノ価額ヲ以テ保険ニ附スヘキナリ此場合ニ於テハ用益者一人ニテ保険料ヲ負担シ而シテ此契約ニ基キ保険人ヨリ受取ルコト有ルヘキ償金ハ用益者一人ニテ全ク之ヲ取得スルモノタルコト固ヨリ論ヲ俟タサルナリ凍雹其他天然ノ事変ニ對シ特ニ収穫物又ハ産出物ノ保険ヲ約スル如キ農業ニ要スル保険ハ将来必ズ本邦ニ於テモ他ノ備荒ノ制度ト共ニ漸ヤク行ハルヽニ至ルヘシ而シテ此種ノ保険ハ用益権ノミヲ保険ニ附シタル場合ト同シク虚有者

ニ利益ヲ與フルコトナシ故ニ右ニ掲ケタル場合ト同一ノ規定ニ従フ可キモノトス

第九拾三条

一個ノ相続ハ總則第拾六条ニ於テ説明シタル如ク財産ノ包括ナリ而シテ相続ニハ必ズ死者ガ其生前ニ於テ未済セザリシ債務又ハ其死亡ノ時ニ於テ始メテ生シタル債務ノ負担アルモノナリ死亡ノ時ニ於テ始メテ生シタル債務トハ葬式ノ費用遺言ヲ以テ為シタル贈與其他ノ負担ノ如キ是レナリ

相続ノ全部又ハ其一分ヲ得タルモノハ之ヲ包括承継人ト称シ被相続人ヲ代表スルモノニシテ此資格ニ於テ凡テ相続ニ属スル債務ヲ負担スヘキモノナリ

用益者カ相続全部ノ収益ヲ得タル場合ニ於テハ是レ亦包括ノ用益者ト謂フ若シ二分ノ一、三分ノ一又ハ四分ノ一ノ如キ相続ノ一分ヲミノ収益ヲ得タル場合ニ於テハ之ヲ包括名義ノ用益者ト称ス

此特別ナル場合ニ於テ用益権ハ前数条ニ掲ケ

ダル如キ負担ニ拘ハラス更ニ特別ノ負担ヲ求スルモノナリ
凡ソ相続ノ財産ハ相続ノ負担又ハ債務及ヒ其他ノ負担ヲ控除シ其残余ヲ以テ組成スルモノナリトハ動カス可カラサル原則ナリ
故ニ用益者ハ相続ニ要スル債務ノ弁済ノ後即チ自己ノ権利ノ割合ニ応シテ之ヲ負担シダル後ニ非ラサレハ財産ノ収益ヲ為スコト能ハス要スルニ用益者ハ其権利ノ目的ダルモノガ相続ノ全部ナルト一分ナルトニ従ヒ全部又ハ一

分ノ弁済ヲ負担スベキナリ
然レトモ用益者ノ有スル所ハ単ニ収益即チ相
続ノ収入ニ止マルコトヲ注意スヘシ従ツテ用
益者ナルモノ有ルトキハ必ス之ト同時ニ虚有
権ヲ以テ元本ヲ相続スル相続人アルコトヲ忘
ル可カラス此故ニ用益者カ相続ノ債務ヲ負担
スルハ其性質ニ於テモ亦其時間ニ於テモ用益
権ト同一ナルコトヲ要ス即チ単ニ相続ニ属ス
ル債務ノ毎年ノ利息ヲ弁済スベク且ツ此義務
タルヤ用益権ノ継続スル間ニ止マルベシ

此許結タルヤ用益者ハ通常收入ヲ以テ弁済之ヘキ負担ニ任スルモノナリトノ原則ニ合スルモノニシテ此原則ハ常ニ其通用ヲ受ケタル所ナリ蓋シ善良ナル管理人ハ債務ノ利息ヲ弁済スルニ元本ヲ以テスルコトナク必ス毎年ノ收入ヲ以テ之ニ充ツル者ナレハナリ

第九於五条ニ於テ用益者カ自己ノ義務ヲ弁済スルニ当リ用フルコトヲ得ベキ種々ノ方法ヲ指示セリ

相続ノ負担タル終身年金債ノ年金又ハ養料ニ

実ニシテ其性質上利息ノ性質ヲ有スルモノニシテ例之バ一定ノ元本アリテ此利息ヲ生スルニ非ラズトスルモ仍ホ右ノ理由ニ依リ用益者ハ年金若クハ養料ノ全部ヲ負担スベク畢竟之ニ對シテ利息ヲ弁済スルノミヲ以テ足レリトセス惟用益者ガ相続ノ全部又ハ一分ニ付テ権利ヲ有スルニ従ヒ又負担ノ割合ニ於テ差等アル可キナリ是レ蓋シ終身年金権ノ用益権ノ場合ニ於テ年金ノ全部ヲ用益者ニ得セシメタル第五拾七条ノ規定ト照合スルモノナリ

第九拾四条

特定財産ノ用益者ハ相続ノ用益者ト異ナリテ設定者ヲ代表スルモノニ非ラス故ニ設定者ニ債務アリト雖トモ更ニ之ヲ負担スルコトナシ

若シ用益権ノ目的タル不動産カ設定者ノ為ニ抵当ニ附セラレタル場合ニ於テハ此抵当ハ用益者ニ対シテ多少ノ効力ヲ有スヘシト雖トモ是レ猶ホ真正ナル義務ニ非ラサルナリ凡テ或ル物権ノ負担ヲ有スルモノニ於テ物権ヲ取得シタルモノハ自己ノ権利ニ先タツ他人ノ権利

ヲ尊敬セサル可カラス是レ純然タル不作為ノ義務ニ限ラスシテ単ニ吾人ハ他人ヲ害スヘキ一切ノ事ヲ為サヽルヲ要スル悪意ノ存否ニ過キサルナリ而シテ抵当権ヲ有スルモノハ其物ガ何人ノ手ニ輾転スルモ常ニ其所在ニ追及シ其所持者ニ向テ抵当物ノ遺棄若クハ抵当債権ノ弁済ヲ要求スルコトヲ得ヘシ抵当物ノ所持者若シ両者ノ一ヲ為サヽル場合ニ於テハ債権者ハ其物ヲ差押ヘ而シテ之ヲ売却セシメ其代価ニ付テ他ノ債権者ニ先ツテ独リ債務ノ弁済

ヲ受クルコトヲ得ヘシ

若シ抵当ニ附セラレタル不動産ガ他日用益権ノ目的物ト為リタルトキハ用益者ハ第三所持者トシテ債務ノ弁済ヲ為スカ然ラサレハ用益権ノ追奪ヲ免ルヽコト能ハサルベシ

若シ用益者不動産ヲ自己ノ手ニ存シテ債務ヲ弁済シタルトキハ其金額ニ付テ右債ノ権利ヲ有スヘシ何トナレハ用益者ハ設定者ノ特定承継人ニシテ設定者ノ債務ヲ負担ス可キモノニ非ラサレハナリ或ハ抵当債権カ設定者ノ要約

ニ生セスシテ其前ノ所有者ニ属スルコト有ルベシ此場合ニ於テハ用益者ハ直接ニ前所有者ニ對シテ求償スルコトヲ得ベシ何トナレバ是レ一身上債務ヲ有スルモノニシテ他人之ニ代リ債務ノ弁済ヲ為シタルトキハ償還ヲ為スベキコト一般原則ノ適用ニ過ギサレハナリ此場合ニ於テ用益者ハ債権者ノ有シタル他ノ担保ヲ代位ノ原則ニ基イテ取得スルコトヲ得ヘシ代位ノ事ハ義務ノ弁済ノ事項ニ至リテ審カニ之ヲ説明スヘシ

若シ用益者ガ抵当ノ効力ニ因テ用益物ノ追奪ヲ受ケタルトキハ之カ為ニ生スル一切ノ損害ハ設定者ニ対シテ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ用益者ハ之ニ関シ追奪担保ノ訴権ヲ有ス可キナリ(参看第三百九十六条及ヒ財産取得編第五十六条)

第九十七条

本条ノ規定スル如ク一箇ノ負担ガ虚有者及ヒ用益者ノ間ニ分タルヽ場合ハ甚ダ多クシテ既ニ第八十七条以下ニ於テ之ヲ明示セリ猶ホ第

九拾七条ニ於テ一ノ場合ヲ看ルベシ本条ニ規定シタル三個ノ方法ハ容易ニ之ヲ解スルコトヲ得ヘキナリ

第一ノ方法ハ直接ニ法律ノ希望スル目的ニ達スルモノナリ惟例之バ相続ノ負担ニ属スル債務ノ如ク用益者及ヒ虚有者ノ分担スベキ債務ガ猶ホ債権者ヨリ請求ヲ受クヘカラスシテ単ニ其期限ノ到達スルマデ利息ヲ生スヘキ場合ニ於テハ用益者ガ利息ヲ弁済スルハ虚有者ノ手ニ於テセズシテ此債権者ノ手ニ於テスルモ

ノ對ナルコトヲ注意スヘシ
第二ノ方法ハ第一ト少シク異ナリト雖トモ帰
スル所ハ皆同一ナリトス用益者ガ自ラ元本
ヲ經濟シタルトキハ用益權繼續ノ間此元本ノ
生シ得ヘキ利息ヲ得ルコト能ハサルカ故ニ結
局此元本ニ對シ毎年ノ利息ヲ拂ヒタルト同一
ナルヘシ
第三ノ方法ハ同時ニ用益者ト虚有者トヲシテ
債務ニ同シキ財産ノ部分ヲ失ハシムル者ニシ
テ虚有者ヲシテ其元本ヲ負担セシメ用益者ヲ

シテ此元本ヨリ生スル利益ヲ失ハシムルモノナリ

第九拾六条

第六拾七条ノ明文ハ用益者ニ與フルニ第三者ニ對スル物上訴権ヲ以テシ他人ノ損害ニ對シテ用益権ノ担保ヲ為セリ然レトモ用益者ノ過失ニ係リ又ハ他人ノ感情ヲ害スルコトヲ欲セサル為メ時トシテ此ノ如キ侵奪ヲ為スモノ有ルモ訴権ヲ提起セサルコト有ルヘシ然ルニ第三者ノ侵奪ニシテ用益物ニ害スルトキハ多ク

ノ場合ニ於テ惟リ用益者ノ害スルノミナラズ仍ホ虚有者ノ為ニ甚タシキ不利益ノ結果ヲ来タスヿ有ルヘシ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ用益者カ虚有者ニ對シ責任ヲ負フヲ以テ其当ヲ得タルモノト為ス何トナレハ用益者ハ其用益物ニ對シ他人ヲシテ不当ノ占有ヲ為スニ至ラシメタルトキハ縦令其占有ハ未タ時効ヲシテ成就セシムルニ足ラサルトキト雖トモ仍ホ善良ナル管理人ノ所為ヲ為シタルモノト云フヿト能ハサレハナリ蓋シ第三款之条及ヒ第六款之七

条ノ下ニ於テ之ヲ示シタル如ク予後ニ右ノ
条ニ於テ其詳ヲ論スヘキ如ク法律ニ定メタル
時ノ間ハ物ノ占有ヲ為シ而シテ法律ニ定メタル
条件ヲ備フルトキハ其占有者ハ権名ノ利益ヲ
有スルノミナラス就中其行使スル権利ノ名義
者ナリト推定セラルヽノ利益ヲ有ス而シテ此
理由ニ依リ回復ノ訴訟ニ付テハ被告人タル利
益ノ地位ニ立ツモノナリ
然レトモ法律ハ用益者ヲシテ自カラ此侵奪者
ニ対シ訴訟ヲ為スノ義務ヲ負ハシメタルモノ

ニ非ラス用益者ハ自カラ所有者ナラサルヲ以テ他人ニ属スル權利ヲ主張シテ訴訟ヲ為ス如キハ甚タ困難ナル可ケレハナリ故ニ用益者カ為スヘキ所ノコトハ他人ノ侵奪ノ場合ニ於テハ之ヲ虚有者ニ告知スルノ一事ニ在リトス

第九拾七条

用益者ハ一ノ物權ヲ有スルモノニシテ此權利ハ自己ノ関係セサル訴訟ニ據テ害セラルヘキモノニ非ラス此ヲ以テ用益權ノ目的タルモノニ関シ所有者カ或ハ原告トナリ或ハ被告ト為

ツテ訴訟ヲ為ス場合ニ於テハ用益者ヲシテ之レニ參加セシムルコトヲ要ス

若シ訴訟ガ完全所有權ニ関スル場合ニ於テハ用益者ハ是收益ニ関シテ自カラ利害関係人タリ故ニ其訴訟ニ於テ破レタルトキハ自己ノ權利ノ性質ニ相當スル一分ヲ負担スベキコト勿論ナリ而シテ屢〻述ベタル如ク此尤モ簡易ニシテ且ツ尤モ正確ナル割合ハ用益者ニ於テ其權利ノ継続スル間費用ノ毎年ノ利息ヲ弁償スルノ一事ニアリ若シ訴訟ニ勝チタル場合ニ於

テ敢訴者ヨリ費用ノ償還ヲ受クルコト能ハザル場合ニ於テハ其負担ノ方法モ亦右ニ掲クル所ト同一ナルヘシ

然レトモ訴訟ニ於テ勝利ヲ失ヒタル場合ニ於テ訴訟ガ用益物ノ全部ニ関シ從ツテ用益権ハ全ク消滅シ又ハ始メヨリ更ニ成立セサリシモノト看做サルヽニ至ルコト有ルヘシ此場合ニ於テ若シ原則ノ嚴格ナル適用ヲ為ストキハ用益者ヲシテ其終身間利息ヲ負担セシメサル可カラス若シ用益者自カラ此ノ如クナルコトヲ

欲セバ常ニ此原則ヲ適用シ得ベシト雖トモ要
ニ一方ヨリ考フルトキハ此ノ如キ永久ノ義務
ヲ負ハシムルコト莫クシテ一時ニ其義務ヲ免
レシムルノ方法ヲ許サヾル可カラズ故ニ用益
者ニシテ直チニ義務ノ弁済ヲ為サント欲スル
トキハ用益権ノ鑑定ヲ為サシメ此ニ因テ用益
者ノ生存スベキ時間ヲ假定シ依テ虚有者ハ弁
済スベキ利息ノ全額ヲ算出スベキナリ
右ニ掲クル外本条ノ二個ノ規定ハ何等ノ困難
ヲ看カルベシ若シ訴訟ガ收益ノミニ関スルト

キハ用益者一人ニテ其費用ヲ負担スヘキコト当然ナリ之ニ反シテ単ニ虚有権ノミニ関スル訴訟ナルトキハ用益者ハ何等ノ負担ヲモ為サヾル可シ

凡テ用益権カ有償名義ヲ以テ設定セラレ而シテ特ニ追奪担保ノ義務ヲ免除セサル場合ニ於テハ用益者ハ担保ノ権利ノ効力ニ依テ訴訟ノ費用ヲ分担スルコトヲ要セス何トナレハ此場合ニ於テ虚有者カ用益者ノ権利ヲ保護スル為メ訴訟ヲ為スハ其義務ニシテ義務ノ履行ニ関

スル費用ハ義務者自カラ其全部ヲ負担スベケ
レバナリ用益権ガ無償ノ名義ヲ以テ設定セラ
レ単純ニ担保ノ合意ヲ為シタル場合ニ於テモ
亦之レト異ナルコトナシ

第九拾八条

判決ハ第三者ヲ害スルコトナク又之ヲ利スル
コトナシトハ法律上ノ一大原則ナリ故ニ若シ
虚有者ガ定在所有権ニ関シ又ハ用益権ニ関シ
訴訟ヲ為シ而シテ用益者ヲ参加セシムルコト
莫カリシ場合ニ於テハ縦令訴訟ノ勝利ヲ失フ

モ用益者ノ権利ハ為ニ何等ノ損害ヲ受クルコトナカル可シ之レト同一ノ理ニ基キ若シ虚有者ガ一人ニテ完全所有権又ハ虚有権ニ関シ訴訟ヲ為シ而シテ敗訴スルコト有ルモ此判決ハ手ニ虚有者ヲ害スルコトナカル可シ

又用益者及ヒ虚有者ハ訴訟ニ参加セシメラルヽヲ竢タス自カラ権利ト利益トヲ保護スルカ為メ進ンデ訴訟ニ参加スルコトヲ得ヘシ

然レトモ用益者ト虚有者トヲ論セス一人ニテ訴訟ヲ為シ而シテ勝利ヲ得タルトキハ左ニ掲

ケタル判決ノ効力ニ関スル原則ハ召喚セラレサリシ者ノ利益ニ於テ多少ノ変更ヲ受クルモノナリ即チ召喚セラレサリシモノハ此判決ノ利益ヲ受クヘシ何トナレハ用益者及ヒ虚有者ノ間ニ存在スル権利ノ関係ニ依リ法律ハ一人カ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ為シタル場合ニ於テ他人ノ利益ノ為メ事務管理ヲ為シタルモノト看做スコトヲ許ス可キナリ然ルニ事務管理ノ性質中代理ト尤モ異ナルト左ノ一点ニ在リ即チ事務管理人ガ本人ヲ代表スルハ単ニ本

人ノ為ニ利益ナルコトヲ為シタル点ニ於テハ
ルモノニシテ本人ニ不利益ノ効力ヲ生スル点
ニ於テハ是レガ代理タルモノニ非ラサルナリ」
実際ニ於テ次ニ掲クルカ如キ場合生スルコトヲ
得ヘシ例之ハ用益者用益権ノ回復ノ訴ヲ受ケ
而シテ虚有者ヲ訴訟ニ参加セシムルコトナク
敗訴ニ帰シタルトキハ訴訟ノ結果ハ虚有者ヲ
害スルコト能ハス之レニ反シテ用益者ハ全ク
此判決ノ為ニ拘束セラルヽモノナリ此ニ於テ
其結果ハ勝訴者ハ用益者ニ代リ物ノ収益ヲ為

スベリ而シテ右ノ用益者ガ其用益権ヲ失フ可キ消滅ノ原因生セサル限リハ虚有者ヨリ此勝訴者ノ収益ニ對シテ故障ヲ為スコトヲ得サルベシ惟夫レ他ノ事情ニ因テ虚有者ト此勝訴者トノ相互ノ利益抵觸シタルトキハ固ヨリ此限リニ非ラサルナリ